



外出先でもスマートフォンで パフォーマンスを管理 「どこでもティントリ」

Tintri APIと様々なツールを活用し、
外出先でも仮想マシンの稼働状況を把握



株式会社アドウェイズ

運用の難しさからかつて共有ストレージの運用を断念

2001年創業、わずか5年で東証マザーズへの上場を果たしたインターネット広告代理店、アドウェイズ。国内最大級の広告主を有するモバイルアフィリエイト（成果報酬型）広告をはじめ、インターネットテクノロジーを駆使した付加価値の高いサービスを展開し快進撃が続く。空間もデバイスも既成概念も国境も「Beyond Everything Internet～インターネットの全てを超えていく～」といったビジョンの実現へ、アジア・北米地域など世界12カ国への事業拡大やスマートフォンアプリの開発にも力を注いでいる。

同社躍進の原動力は、社員1,200名以上、グループ会社35社、売上396億円（2016年3月期連結）の企業に成長しても失われることのないベンチャー精神だ。常に挑戦し続ける同社にとってビジネスのスピードは欠かせない。同社はビジネスの変化に柔軟に対応できるICTインフラを実現するべく、2012年からVMwareによるサーバーの仮想化を進めている。

仮想化導入にあたって、VMwareの機能を最大限に活かすために共有ストレージは必要となる。だが、同社は以前共有ストレージの運用を断念した経験があり、再導入に踏み出せなかった。

「当部は少人数で商用も社内もすべてのICTインフラを担っており、ストレージ専任の技術者を置くのは難しいのが現状です。かつて共有ストレージを導入した際、各種設定が複雑なためチューニングや設定変更のたびに外部ベンダーに依頼していました。コスト面はもとより多くの時間を要し、ビジネスのニーズに迅速に対応できないことが大きな課題でした」とアドウェイズ サービス開発グループ インフラストラクチャー Div チーフシステムエンジニア 伊藤正之氏は話す。

同社の共有ストレージへの懸念を払拭するきっかけとなったのが、VMware開催の「vForum 2012」でのTintri VMstoreとの出会いだった。

少人数の社内スタッフで容易に運用できる点を高く評価

「vForum 2012」でティントリと出会い、仮想化専用ストレージというコンセプトに着目した同社は、テスト機を借り受けて様々な検証を実施した。

「VMwareとの親和性の高さに加え、70,000IOPSを超える性能を発揮し当社の性能要件を十分に満たしました。またデータ圧縮と重複排除による100%に近いSSDヒット率の実現もアドバンテージとなりました」パフォーマンスに加え、運用のしやすさも採用の大きなポイントになったという。

Tintri VMstoreは細かい設計が不要で、わずかな設定で導入が可能。またLUNやボリュームを考える必要がなく、仮想マシン単位で運用管理が行えることに加え、チューニングレスで安定したパフォーマンスを実現できることから、社内スタッフで容易に運用できる点を同社は高く評価した。

2013年、Tintri VMstoreを共有ストレージとする仮想化基盤が本稼働。現在25台の

業種

インターネット広告事業

事業概要

スマートフォン向け広告事業／インターネット（PC）アフィリエイト広告事業／モバイルアフィリエイト広告事業／メディア開発・運営事業

主な課題

- ・仮想化環境の共有ストレージを社内スタッフでスムーズに運用したい。
- ・少人数で運用しているため外出先でもパフォーマンスを管理したい。

ビジネス上のメリット

- ・Tintri VMstoreは、LUNやボリュームを考慮する必要がなく仮想マシン単位で運用管理が行えることに加え、チューニングレスで常に安定したパフォーマンスを実現。社内スタッフで容易に運用でき、コスト抑制やビジネスのニーズへの迅速な対応を可能に。
- ・Tintri APIと様々なツールを活用し、スマートフォンでTintri VMstoreの管理画面やアラート情報が見られる「どこでもティントリ」を実現。外出先でもパフォーマンス管理が行えるため早期解決が図れる。

物理サーバーと2台のTintri VMstoreを10G-BaseTで接続し700台以上の仮想マシンが稼働している。

「当社におけるサーバーの90%以上を仮想化することができました。広告、ゲーム、効果測定など様々なワークロードが動いていますが、遅延は一切発生していません。またラック数を半減できたことで、データセンターにおける月々のランニングコストの大幅な削減も図れました」(伊藤氏)

外出先でもスマートフォンでパフォーマンスを管理「どこでもティントリ」

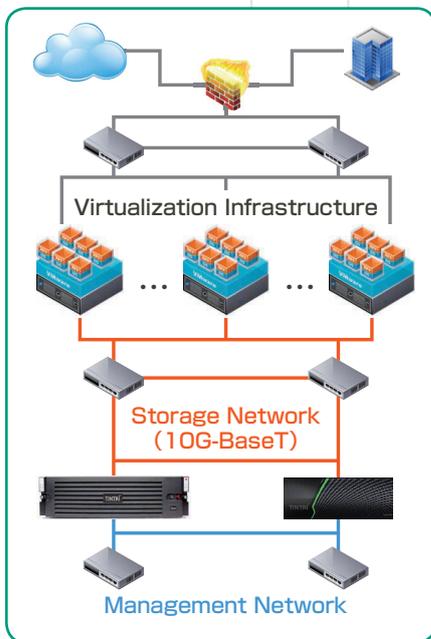
共有ストレージの運用に関しては、「たまにTintri VMstoreの管理画面を見るだけです」と伊藤氏は話す。管理画面では仮想マシン単位でホスト、ネットワーク、ストレージレベルのパフォーマンスが可視化されており、ボトルネックの箇所が一目でわかる。

新卒のスタッフにも運用に参加してもらい、Tintri VMstoreの管理画面を使って要因を特定し解決していくプロセスを経験する教育的効果も期待しているとのこと。

少人数の運用管理では情報共有とモバイル性が重要となる。同社はTintri APIを使ってTintri VMstoreのパフォーマンスの可視化機能を拡張し「どこでもティントリ」を実現する仕組みづくりに取り組んでいる。

「スマートフォンでコマンドを打つことによりアプライアンス情報やアラート情報、ダッシュボード情報はもとより、フラッシュヒットレートやレイテンシー、IOPSなど仮想マシン情報の一覧を見ることができます。また仮想マシン名を正規表現でフィルタリングが可能です。外出先でもスマートフォンで仮想マシンの稼働状況を確認できるため早期解決が図れます」(伊藤氏)

「どこでもティントリ」は、プログラミング言語Pythonを使ってチャットアプリSlackのbotとして開発している。現在は情報取得のみで利用しているが、様々なツールを活用しダッシュボード情報のグラフ化やフラッシュヒットレートの低下を警告する通知など工夫次第で活用シーンは広がっていくと、伊藤氏は次のように続ける。「Tintri APIを使ってスマートフォンから設定やクローンの作成なども可能になると考えています。共有ストレージの運用に不安のあった当社が、安心して運用できるだけでなく、運用レベルの向上が図れるというのもTintri VMstoreの魅力です」



仮想環境

- ・ VMware

適用システム概要

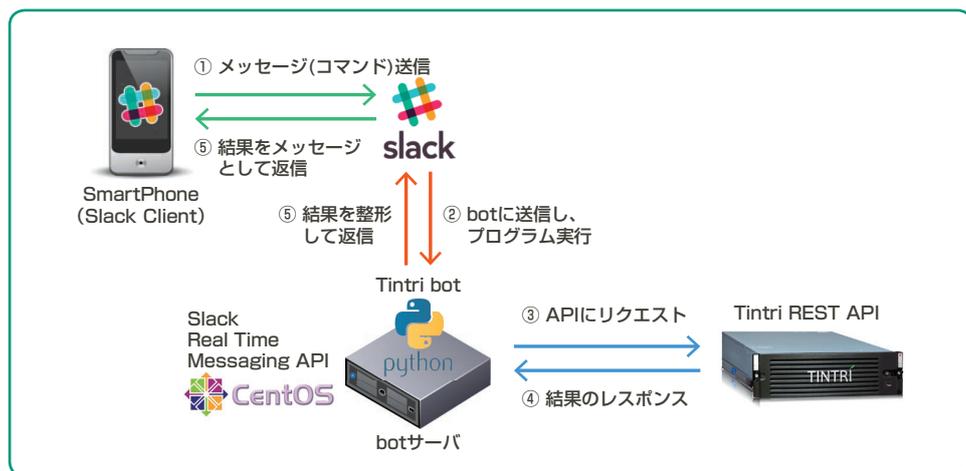
- ・ サービス仮想化基盤

ソリューション

- ・ Tintri VMstore T540 T650

主な用途

- ・ 700台以上の仮想マシンが稼働するサービス仮想化基盤の共有ストレージ



「少人数でも安心して運用が行えるだけでなく、Tintri APIと様々なツールを活用し『どこでもティントリ』など運用レベルの向上が図れるのもTintri VMstoreの魅力です」

株式会社アドウェイズ
サービス開発グループ
インフラストラクチャーDiv
チーフシステムエンジニア
伊藤 正之氏

interviewee of this article



株式会社アドウェイズ
サービス開発グループ
インフラストラクチャー Div
チーフシステムエンジニア
伊藤 正之氏



ティントリジャパン合同会社
東京都千代田区丸の内2-2-1
03-6213-5400

info.japan@tintri.com | www.tintri.co.jp